

落葉処理の徹底について（号外第9号）

令和4年11月11日
富山県富山農林振興センター
なのはな農業協同組合

1 黒星病秋型病斑発生状況について

本年、10月中旬調査時の黒星病秋型病斑葉（写真）の発生率は低い値でしたが、11月8日も調査をしたところ、「幸水」、「豊水」とも発生率が上がっている（下表）ことから、引き続き精度の高い落葉処理が重要です。



写真 黒星病秋型病斑（薄墨色の黒い斑点）

表 本年秋の黒星病秋型病斑葉発生率（%）

	R4.10月	R4.11月
幸水	2.2	11.0
豊水	2.5	11.5

2 落葉処理について

落葉の放置や落葉処理精度（※）が低いと、翌春、地表面に残った落葉から黒星病菌胞子が飛散し、5月上旬頃からの幼果への黒星病斑発病の危険性が高まります。

落葉の放置や落葉処理精度が低い園地があると、自園地のみでなく、隣接園地（他の生産者）にも被害を及ぼします（産地全体での取り組みが重要です）。

※：園地周囲や側溝、幹元の落葉を、松葉ぼうき等で集めて処分する、園地内部でモアやロータリー等を使用する場合は、低速で走行する等丁寧に葉を粉砕し、すきこんで下さい。

※：なお、園地外に落葉を持ち出す場合は、適切に処分してください。

落葉処理の詳細については栽培情報第8号で確認をお願いします。

来春の芽基部病斑発生防止のため、3回目の秋期防除も確実に実施してください。

3 カイガラムシ類対策について

立ち木状態の花粉採取用樹や主枝先端部、若木の主幹部分等にカイガラムシ類の寄生が見られる場合は以下の対策を実施してください。

（1）薬剤が付着しやすい樹形へ改善する（せん定時）

①花粉採取用樹で樹高が高い、棚仕立て樹先端の主枝が高い場合（えんとつ状態）は、できるだけ切り下げる。

②古い側枝に存在する短果枝群（しょうが芽）は、芽の整理を行う。

（2）発芽前の防除を強化する

①発芽前（2月下旬まで）の暖かい日を選び、「機械油乳剤95」を散布する。

②カイガラムシ類の付着が多いところでは、「機械油乳剤95」の散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。